

つくば・TX版
沿線版

学外での学び成果報告

筑波学院大の学生25組

筑波学院大学（つくば市吾妻、大島慎子学長）で2日、学生が学外活動などで社会力を高めるオフ・キャンパス・プログラム（OCC）

P）の学年報告会が行われた。学生25組が1年間の活動の成果を発表し、学生や受け入れ団体の市民ら300人が聴講した。（山本一暁）



常陽新聞でOCCの研修を受け、自分の記事が掲載された喜びを語る学生ら。つくば市吾妻の筑波学院大

市民ら300人聴講、感謝の声も

市内のNPO法人や企業などで活動した約70組から優秀な活動をした学生らがステージに立ち、スライドなどを交えながら活動内容や、そこで得た経験、反省点などを説明した。

学生からは「活動を続ける大変さと重要性を感じた」「自分の足りない部分を知ることができた」「自分の案が採用されることに喜びを感じた」などの声が上がった。

受け入れ団体は「授業としての活動が終わってからも、手伝ってくれることがあって感謝している」「来年度以降も継続してボランティアに来てほしい」などと感謝を話し、関わった学生が立派に発表する姿に満ちていた。

同大は「つくば市をキャンパスにした社会力育成プログラム」としてOCCを実践して

いる。1、2年生は必修授業で全学生が参加。1年生は「実践A」の授業で1日だけの体験。2年生は「実践B」の授業で計30時間の体験を行い、地域とのつながりなどを学ばせている。

大島学長は「OCCは10年目を迎えることができた。今後は地域と学生が双方向で研究する活動として発展させていきたい」と話した。